

保土ヶ谷区の災害時の医療体制について

出来る限り多くの命を救うため、災害時にけがをした場合は、適切な受診行動へのご理解とご協力をお願いします。

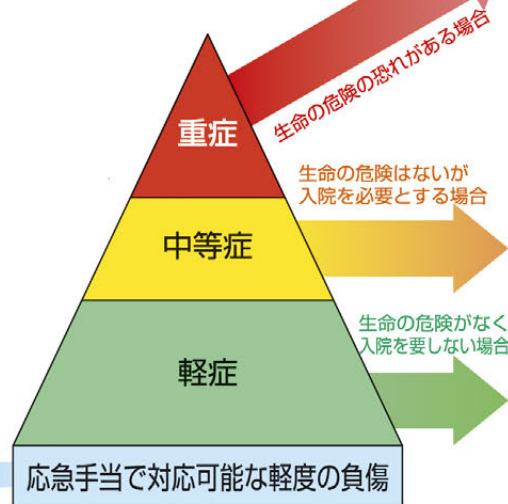
災害が起きた時、限られた医療機関の中で
混乱なく受診するために大切なことは…

- ・日頃から地域にある医療機関を知っておく
- ・症状の重さに応じた医療機関を受診する

◆ 区民の自助・共助による応急手当

医師の診療を必要としない極めて軽度の負傷は、自助・共助による応急手当を行ってください。

なお、全ての地域防災拠点に応急手当用品（消毒液、包帯、ばんそうこうなど）が配備されています。



【重症度別医療提供体制のイメージ】

※おくすり手帳は緊急治療時などにも役立ちます。
災害避難時にも必ずお持ちください。



●災害時には、目印としてのぼり旗を立てます。

◆ 災害拠点病院へ 【赤色ののぼり】

横浜市立市民病院を含む
市内 13 病院

◆ 災害時救急病院へ 【黄色ののぼり】

横浜保土ヶ谷中央病院、聖隷横浜病院、育生会横浜病院、イムス横浜狩場脳神経外科病院、港北病院※、常盤台病院※

※精神疾患に対応

◆ 診療所へ 【黄色ののぼり】

被災を免れ、負傷者（軽症者）の受入れが可能な診療所

また、地域防災拠点の負傷者（軽症者）に対しては、医師・薬剤師・看護師などの医療救護隊が巡回診療などを行います。

トピック ～ 帰宅困難者は大都市特有の深刻な問題 ～

「むやみに移動を開始しない」ことが大切です。

- ・首都圏で大地震が発生すると、鉄道などの交通機関が止まってしまう、帰宅できなくなるおそれがあります。
- ・多くの人が一斉に帰宅しようとすると、路上や駅周辺で大混雑が発生し、大変危険な状態になります。

○まず、家族で確認

大地震で交通機関が途絶えたときは、すぐに帰宅しない場合もあることをあらかじめ家族に伝えておきましょう。

○安否確認手段を決めておこう

急いで帰宅しようとするのは、家族や自宅の被災に対する不安が大きな動機となります。

安否確認の方法（どの手段で、どの電話番号で登録・再生するのかなど）について家族内で決めておきましょう。

職場・学校に一泊以上留まるための準備

自宅が職場や学校から遠く離れている場合には、職場や学校に**一泊以上留まり翌日以降に徒歩で帰宅**することを考えましょう。

翌日帰宅は、大量の人が、一斉に徒歩で帰宅をすることによる混乱を抑えるのに大変効果的な方法です。

一泊以上留まるための備蓄を職場などに準備しましょう。

備蓄の例



●帰宅困難者一時滞在施設検索システム「一時滞在ナビ」 携帯電話で収容できる施設の情報を検索することができます。
<https://www.city.yokohama.lg.jp/b-m/>（モバイル版） <https://www.city.yokohama.lg.jp/b-sp/>（スマートフォン版）